

# ハーモニー

第7号

平成31年 3月 4日

(文責 箕輪西小学校 森田ひろみ)

平成30年度も残り一か月となりました。年度末の様々なまとめに加えて、卒業式に向けて歌の練習が続いていることと思います。

寒暖差の激しい季節です。全校の前に立つ私たち。元気にがんばりましょう。

- ♪総会でプログラム集を会員の先生方に1部ずつお配りしました。ご不在だった先生の分も配布済みですが、まだお手元に届いていなかった場合は、長谷小学校・小林までご連絡下さい。
- ♪会誌「Harmony」ができあがりしましたので、会員の先生方に1部ずつお配りします。会館の各校の棚に入れさせていただきましたが、プログラム集と同様、お手元に届かないというようなことがありましたら、お手数ですが、長谷小学校・小林までご連絡ください。
- ♪会報『ハーモニー』や、会誌「Harmony」の発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただいた先生方、本当にありがとうございました。この場をお借りし感謝申し上げます。

## 総会 ♪ 冬季講習会

2月16日(土)「総会」と「冬季講習会」が行われました。総会では、各部より活動報告と反省が発表されました。

- ♪長年アナリーゼのご指導をいただいている飯沼先生は、来年度が最後だそうです。後任の指導者を考えていかなければなりません。私たちの視野を広げる時となりそうです。
- ♪アンサンブル交歓会は、参加規程について、いろいろなご意見がありました。子どもたちの1年間の締め括りでもあるこの時期、力もつき、満足感を得る会にしたいですね。
- ♪会誌「Harmony」は今年度で終わりの予定です。研修を拡散・悩みを共有・授業を見合う…よいものが広く伝わるための方法を変える時と考えています。

総会後の冬季講習会は「箏」でした。各校から運ばれた箏に2~3人ずつ並び交代をしながら演奏をしました。私は、手元を見ると楽譜を見失うし、楽譜を見ると13本の弦の上をさまよっていました。そんな体験をしながら、演奏を交代する時に生まれる「演奏をしない時間」に、歌いながらの譜読みや右手の上下の感覚を予習・復習できることなど、ペア学習のよさを実感することができました。

高遠小学校 小澤史子

2月16日(土)に冬季講習会が行われました。講師は、箏曲演奏家 生田流大師範 川村利美先生です。今回の講習会を通して、川村先生のわたしたちへのメッセージが伝わってきました。「箏を特殊な楽器と思わず、他の楽器と同じように出しておいて使ってほしい。子どもさんたちに触ってもらいたい。もっと箏を身近に置いて、どんどん活用してもらいたい。」先生の熱い思いが何度も伝わってきました。箏の基本的な奏法について学びました。やはり、(お爪をつけていない)左手を置くことによって姿勢がよくなる、ということがわかりました。両手をはたらかせることは、どんなことにも通じて大切なのだと感じました。

「響きのいいところで弾く」という先生の言葉が心に残りました。何度も、いろいろな場所を弾いて試すことで、よく響くところを自分で探し当てる必要があるのだと思いました。

「箏は、創作に使える。効果音としても、打楽器としても。」先生は、箏のいろいろなパーツから音を出して聞かせてくださいました。また、箏+リコーダー（歌）などのアンサンブルもしました。箏の面が必ずしもたくさんそろっていなくても、このようにパートを分担して演奏することで効果的な学習もできるのだとわかりました。引き爪などの技が響き渡る



と、会場に「おおーっ」という声がきこえました。

この講習会で、一年にたった一度だけ音楽室の奥にある練習室から出してきて6年生が体験学習するだけの箏に申し訳なく思いました。とても大事に保管する必要はもちろんあるのだけれど、子どもたちにとってもっと箏を身近に感じてもらえる環境をつくろうと思います。

ありがとうございました。



## 東日本大会に出場してきました

美篤小学校 一ノ瀬武志

2月10日（日）、神奈川県川崎市で「全国小学校管楽器合奏フェスティバル東日本大会」が開かれ、美篤小学校は長野県代表として演奏してきました。今年で41回目を迎えるこの大会は、県→東海→全国と勝ち抜いてゆく「コンクール」ではなく、各県から1～2校が推薦されて出場する「演奏会」です。

美篤小学校は、決して長野県で一番上手なバンドではありませんが、今年度はじめて東海大会へ勝ち進んだという話題性から、推薦されたのではないかと思います。おかげさまで、子どもたちは県代表としての誇りと自信をもって演奏することができました。関係の皆様深く感謝申し上げます。



＜今年度の大会出場実績＞

- 4月29日 上伊那吹奏楽祭
- 7月28日 長野県小学校バンドフェスティバル【東海進出】
- 10月13日 東海小学校バンドフェスティバル【銀賞】
- 2月10日 全国小学校管楽器合奏フェスティバル東日本大会
- 2月16日 長野県小学生アンサンブル交歓会

# 『アンサンブル交歓会』の子どもたち

## ①小学生 初出場

箕輪南小学校 山崎由紀

箕輪町では12月に「Xmas コンサート」が行われます。唐沢史比古先生が実行委員長をされている会です。本校は合唱団はないのですが、3年前に低学年の有志を募って参加をしたところ「かわいい〜♡」というお言葉をいただきました。素直な子ども達は、もう嬉しくて嬉しくて、「来年も出たい！」と気分は超前向き！結局その子達は3年連続コンサートに参加させていただきました。しかし、高学年になると和太鼓で休日参加をすることが多いため、Xmas コンサートは低学年に任せて参加しなかったのです。「え〜！出たかった！」予想以上に悲しむ5年生を見て「これは何か代わりに参加をさせてあげなくては…」と考えた結果「アンサンブル交歓会に勇気を出して参加してみよう」と、急遽参加を決めたのです。「賞状がもらえるよ」という言葉もとても魅力的だったようで、やる気は満々。指導をする専科は頼りないけれども、高見校長先生と担任の三村先生という頼もしいお二人もいてくれる。きっと練習で行き詰まったら大切なアドバイスがいただける。そんな精神的支えもあって決断しました。

ちょうど児童会役員選挙期間で、候補者・推薦責任者・応援チームメンバー等、それぞれが役割を持って選挙運動を早朝に行い、その後すぐに音楽室に駆け込んでくることもしばしばでした。「『〇〇に清き一票をよろしくおねがいします』が発声練習みたいだね〜。」と冗談を言い合ったこともありました。「忙しくて大変」というよりは「充実」という言葉がぴったりの5年生でした。また、初出場の上に初のアカペラにも挑戦という大冒険もしたのですが、そのことでより相手の声を聴いてハーモニーを感じ合い、「ハーモニーをつくる」という意識がとても高くなったように思います。

当日、顔がこわばるほどに緊張をしていたのは、私と担任の三村先生。子ども達はいたって普通。本番のステージでいつものように歌うことを楽しんでいる姿を見た時は「子どもってなんてすごいんだろう」と驚きでした。普段、他の学校の歌声を聴かせていただく機会が少ない本校の子ども達にとって、合唱団で鍛えた他校のみなさんのすばらしい歌声をたくさん聴かせていただけたことは何より貴重な経験でした。「あの歌声すごいな〜」「あんなきれいな声、どうやってるのだろう？」きっとたくさんの方を同じ小学生から学んだことでしょう。

終わった後の満足感いっぱいの子どもの表情を見て、「参加させていただいて本当に良かった！」と心から思います。

すてきなアンサンブル交歓会、本当にありがとうございました。

伊那東小学校 塚田真菜  
それぞれの学校が、少人数ならではの美しいハーモニーをホールいっばいに響かせることができた1日だったと思います。聴くマナーも素晴らしかったです。



箕輪東小学校 福田明美

30人以上で4チームの参加ができるようになったので、なかなか内気な4年生に発表の場を経験させたいと思い、出させていただきました。

本番は緊張して声が更に出なくなってしまうようでしたが、たくさんの学校の演奏も聴いて、心に残ったようでした。その経験か、音楽の授業で、1人で歌えなかった子が、歌えるようになりました。中学生の演奏も聴けて、特に男の子達は、来年に向けて、あんな風に歌いたいと、明確な目標が持てました。成長できる場をあたえていただき、ありがとうございました。

## ②中学生 男子

長谷中学校 中谷梨恵

アンサンブル交歓会で人気者(?)になった二人の男子部員について、リクエストがあったのでほんの少し書かせていただきます。二人とも現在2年生ですが、1年生の時から「あの大きい子、3年生?」と言われてきました。見ていただいたのでお分かりいただけていると思いますが、二人ともとても楽しそうに歌ってくれます。ただ、ゆったりした静かな曲も元気に歌ってくれます。ここは、いつも彼らと私の戦いです。いかに、楽しそう感を残しながら、静かに歌わせるか。二年間戦い続けていますが、まだ決着はついていません。気がつけば、彼らと部活ができるのもあと半年とちょっと。この先ずっと、合唱ではなくても音楽を楽しんで、好きでいてもらえるために、この半年とちょっとの時間が彼らにとって心に残るような時間になるよう、戦い続けたいと思います。

## ③二校のコラボレーション

春富中学校 春日理沙

今の春富中学校合唱部に足りないものは何かを考えた時に、長谷中学校音楽部の皆さんの歌っている姿が思い出されました。長谷中の皆さんはコンクールでもコンサートでも、人数は少なくてもいつも笑顔全開で楽しそうでパワフル。そんな長谷中と一緒に音楽をしてみたい、交流をしてみたいという思いから、12月に長谷にある老人ホームへ合同慰問演奏をさせていただきました。初めての場所でトラブルもありましたが、お互いの良さを感じることができた活動になったのではないかと思います。

利用者さんへの接し方、曲紹介と挨拶での気遣いに触れ、長谷中の皆さんは常に目の前にいる人のために行動をしているということに気がきました。顧問の中谷先生にお話を聞くと、日常の活動は慰問演奏のほか、地域のイベントへの参加、学校内で休み時間に開くコンサートなど、とにかく本番が多い!練習をして練習をして本番で練習の成果を発表する…ではなく、聞いてくださるお客さんのためにまずは自分が楽しむ!本番で楽しめるように練習をする!という根本的なスタンスが違うことを感じました。

慰問演奏の後、長谷中学校に移動をし、交流会をさせていただきました。まずは仲良くなるためにも春富



の部員が主体でレクレーション。その後は長谷中主体でWANIMAの「やってみよう」の合同練習を行いました。数十分のパート練習のあと、すぐに全体練習。考えてくださっていた振り付けと掛け声を曲にプラスして、あっという間に一つのパフォーマンスが出来上がりました。大人数で歌うって楽しい!思いっきり表現するって面白い!とても良い時間を過ごさせていただきました。

アンサンブル交歓会の交流会の話が出た時に、中谷先生から「やってみよう」を合同で発表しないか、と声をかけていただきました。迎えた本番は審査もあるアンサンブルから開放されたということもあってか(笑)、楽しく明るいステージになりました。会場にいた保護者の方や小学生の心に、何かを残すことはできたでしょうか……。お客さんからの手拍子、終わった後の割れんばかりの拍手に、満足そうな充実した顔で席に戻ってきた子どもたちの姿が印象的でした。

本番まで合同練習をする時間はなかったので各校それぞれでの練習になりましたが、「この声量だと長谷中に負けてしまうと思います!」「長谷中も春富もどっちの学校も素晴らしかったね、楽しかったと言われたいです!」練習中の子どもたちの心には、一緒に練習をした日のこと、長谷中の皆さんからもらった熱が確かに存在していることを感じていました。同学年の人たちがこんな風がんばっている!と知れたことは子供たちにとって大きな刺激になったと思います。今回のように「やってよかった!」と満足できるステージをこれからも作っていきたい。もっと他校の良さから学びたい。音楽でつながる楽しさを子どもたちに感じて欲しい。夢は膨らむばかりです。良い出会いに感謝したいです。

長谷中の皆さん、会場で演奏を聞いてくださった皆様、ありがとうございました!